

22/1/19 名古屋城木造復元事業市民向け説明会（質疑応答）

名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし

林： お待たせいたしました。

ここからは名古屋城天守閣木造復元事業につきまして、皆様からのご質問をいただき、時間は20時20分までとさせていただきます。なお名古屋城調査研究センター学芸員による講演についてのご質問は、この場ではご遠慮いただきますようよろしくお願いいたします。天守閣木造復元事業についてのご質問に限らせていただきます。

何卒ご容赦ください。

最初に会場の皆様からのご質問にお答えする職員等をご紹介します。

名古屋市長河村隆でございます。

名古屋市観光文化交流局局長の折戸でございます。

名古屋城総合事務所所長の佐治でございます。

主幹の荒川でございます。

主幹の荒井でございます。

調査研究センター副所長の村木でございます。

主幹の柴田でございます。

株式会社竹中工務店でございます。

それでは、ただいまより、ご質問をお伺いします。

ご発言につきましては、できるだけ多くの方からいただきたいと考えておりますので、お一人様3分以内で簡潔にご発言いただきますようご協力お願いいたします。

なお2分30秒になりましたら私の方からお知らせしますので、残りの30秒にてお考えをまとめていただきたいと思っております。手を挙げて発言いただきますと、上げていただきますと係の者がマイクを持ちします。ご発言はマイクを通してお願いいたします。

それではどなたかご質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。

では前の方、ちょっとお待ちください。

武藤： 今晚は、非常に良い企画で恐れ入ります。

私はその城西小学校出身の人間でして、名古屋城はいつも見てました。

で質問が2つございます。

1点目ですけども、資料11ページです。

木材の本数が2000なんぼとあるんですけども、必要数がなんぼあって何%ぐらいだったかということです。

もう1点はちょっとあの復元に直接関係ないか分からないんですけども、関連性があると思うんですけども、景観の問題です。

私はさっきも申しましたように城西小学区の間人ですから、ホテルキャッスル、そのホテルができる前では無意識に真ん前に天守が見えました。堀川から西側の方に100m位先にい

ったら実家がありました。そういうのができまして、ホテルができまして全く見えなくなりました。ましたやはりですね、いつもあるものがないということで。今解体されてましてちゃんと見えてますけども、そういう景観に配慮した、例えば高層ビルを作るとか、そういうような配慮が確か新聞なんかでは中日新聞なんかでそういうことがあったと思うんですけども、最近ですね自分の母校の小学校からの景観からは必ず見れるということは残すとか、そういう他の環境に配慮した景観との中での素晴らしい木造天守いうことを希望します。以上です。

林： ありがとうございます。

2つて、1つは11ページですね資料の。お名前お願いできますか？

ありがとうございます。ちょっとお待ちください。

武藤： 武藤、武士の藤です。

林： お住まいの区を教えてください。

武藤： 今住んでるのは昭和区で実家はあの西区で。今、実家が1軒家で両親がのうなってますので、ほぼ半分半分に生活しますので、今本当に実家の近辺の方はいつも天守を見ながら「ええね」というふうについていつも言っております。以上です。

林： ありがとうございます。

では木材の必要な本数と、今何割ぐらい調達してるんでしょうかということが1つ目ですね。お願いします。

名古屋城： 城の木材について質問いただきましてありがとうございます。

ここに契約の本数を書いておりませんので申し訳ございません。

今調達してる本数が2,071本ということで、今の竹中工務店と名古屋市とが契約をしております木材は柱や梁という、大きくて長い部材です。それが今の契約の本数でしますと2,323本を契約しておりまして、そのうち2,071本を調達をしているというところでございます。

林： ありがとうございます。

もう一つですね。後の周囲の景観についてお願いいたします。

名古屋城： はい、景観の問題ということで、ちょっと詳しい条例の方はちょっと失念してしまっただけですけども、名古屋城の景観を確保する条例っていうのを名古屋市で作っております、それに基づいて規制がされておるはずで。また名古屋城の周囲の道路ですと

かそういったところからの景観につきましても、今樹木がかなり生い茂ったりしてるところでございますので、そういったものを見直しながらですね、あの景観楽しんでいただけるような計画にしていきたいと思いますというふうに考えておりますので、よろしくお願ひします。

林： ありがとうございます。
契約本数イコール必要数でよろしいでしょうか？

荒井： おっしゃる通りでございます。

林： ありがとうございます。
では次の方いらっしゃいますか？
ちょっとごめんなさい。そちらのあの白髪のごめんなさい。

西浦（男性）： 南区の西浦と言います。
昨年度の説明会に参加しました。今日の説明会と感想というか、一体どうなっとるんだろかねっていうのがあります。
去年の説明会では、名古屋城の木造計画を進めますと。市長ももともと木造でやりたいっていうことを盛んに仰ってました。
また今年になれば、もう少し進展があるのかと思いましたが、何の進展も見られませんね。
特に竹中工務店さんとの関係ですが、技術提案方式というので、こういうお城を作りたいと木造で作りたいんだと言って竹中さんの案がこれが一番ええと言って木造の計画が始まったんですよ。
ところが、なんだかんだがあってエレベーターの問題もあって、とにかくストップしてますよね。
今回の説明会は文化庁の関係のことは書かれているわけですが、そうなりますと、7ページですかね、6ページですか、6ページで文化庁の所見指導というところで、特に今回、太字で書いてある復元検討委員会には、石垣保存方針、基礎構造、バリアフリーの方針などの諸課題を含む解体と復元を一体とした全体計画をある程度まとめることが必要だと、こういうふうになんぞ太字で書いてある。
これはどういうことなんでしょう、竹中さんとの技術提案方式はなくなったということですか。
技術提案方式でやったあのプランという、それから竹中さんが作ったあの立派な名古屋城こうやって作りますよというようなビデオの中身はどこへ行ってしまったんですか。
しかも専門家の委員会の先生たちとの関係で言えば、もう一遍きちんと整備し直して基本計画を練り直すという話になってくる。

これ一体どういうことなんでしょう。辻褄が合わないということで、僕は非常に不思議な感じがしております。

林： ありがとうございます。

今のは去年から今年でどんな進展があったんだろうかということと、それからそのそもそもの契約はどうなってるんでしょうかということによろしいでしょうか？
お願いします。

名古屋城： まず昨年からの進展ということでお話させていただきますと、これまで木造天守復元に関しましては、文化庁さんの方には個々、個別の相談だとか、技術的なご助言、指導をいただくことはございましたけれども、この度所見をいただきまして、木造復元を視野に入れた全般的なご指導を初めていただくことができたと思っております。

昨年度実施しました文化庁からの指摘事項への回答の作成にあたっては、丁寧な上にも丁寧に進めるとともに、有識者との十分な議論と合意形成が図られたことから一定の評価が得られたものと認識しております。

今後の手順についても明確になってきたことから、我々としては木造復元に向かって着実に前進していると考えているところでございます。

また先ほど出ました全体計画に対して、石垣保存方針ですとか、基礎構造のバリアフリーの方針など、こういった課題をまとめることが必要ということで、文化庁からもご指摘いただいておりますけれども、それに対して竹中の技術提案はどうなったかというご質問だと思いますが、事業を進める中で、新たにわかってきたことですとか、生じてきた課題そういったものにも対応していくということになりますので、竹中さんの技術提案が反故になったとかです、そういったことではございませんので、ご理解いただきたいと思っております。

林： ありがとうございます。

はいでもそちらのあれですね、女性の方ですか。

西浦（女性）： 南区の西浦です。

私は河村さんの前の市長さんのときからお話します。

河村さんが市長になられる前には、本丸は復元。天守は耐震が決まっています、2012年13年、既に河村市政ではありますが、耐震の試算も、耐震がOKも出ています。

ところがリコールとかお忙しかったし、ふとオリンピックが決まったので、木造をやらまいていうことで、いろいろあの画策をされまして、今お集まりの皆様も木造の方が多くですが、そういう人たちが周りにたくさんになって、市役所も変わってしまっています。

特にアンフェアだと思えたのは、2016年の6月13日、来月から外のエレベーターを壊すということで市民が大反対をしまして、市議会でも2020年オリンピックまでの木造というのは、一度断念させました。

一遍、駄目になったんですね。1年間継続審議だったのが3月予約選挙の時に、なぜだか、議会が1年間継続審議は廃案なのを呑んじゃったんですね。

報酬バーターだと言われてます。

極めて政治的な案件であったと。議員さんに聞いてもできっこないけど市長に合わせておくとかね。

それからいろんなことを聞きましたが、はっきりおっしゃらない、アンフェアです。市民は意見を聞いてもらえません。

私の友達が、今のお城にお父さんが大変な時代にいっぱい寄付をして、燃えない、たくさん燃えましたね、大阪でも京都のアニメでも。燃えないっていうことを頑張って、もちろん安く仕上げたいってこともあるでしょうが、その頃の見込み、すごい技術で、今のお城は大阪や熊本と並ぶ名城です。それを壊していいか、市民は聞かれておりません。

私の周りでも「また説明会があるよ」といって「まだやっ取るの、このコロナで」市長は、女性名古屋でコロナ前と後は一変したと書いてるがね、（あと30秒でお願いします）はわかりました。

そういうことを、もうとんでもないと民心はここに離れています。

この人は木造が好きで来てるかもしれない。だけど市民はもう本当にこれは困った。こんなことを40年先まで子孫に課題を残して欲しくありません。

お願いします。

林： ありがとうございます。

ご協力ありがとうございます。では今の市民の意見、いろんな意見があるかもしれませんがそのことについてはどうなんでしょうかということですね。

これはどなたに。はいお願いします。

佐治： 所長の佐治から答えさせていただきます。

満足いける内容かどうかは別としまして、毎年こういった形でですね、市民向けの説明会という開催しております、あの状況を正確にお伝えしまして木造天守状況につきましてご理解いただくということを、我々心がけているところでございます。

またいろんな有識者会議でありますとか、その議会なんかでいただいた意見につきましても、あの真摯に受け止めて、そういったことをそのまま計画に反映させていくという、そういったその気持ちで取り組んでおりますので、ご理解いただきたいというふうに考えております。

林： ありがとうございます。前の方どうぞ。

吉村： 千種区から来ました吉村と申します。

景観、先ほど最初の質問の方をします。景観に関するちょっと意見と、それからこの9ページに関する質問をさせていただきたいと思います。

景観に関して私時々大阪に行くんですけども大阪に行くと、大阪城の近くに泊まります。朝大阪城の周りをぐるっと歩いたり中もあそこは入れるもんですから、入ったりしてよく見て名古屋城とよく比較いたします。

景観に関してはですね、非常に残念ながら、名古屋城周辺は汚い。やっぱりお城っていうのは大きい小さいだけじゃなくて、やっぱり周りにですね、堀に水が入って周辺が綺麗だっていうことがね、やっぱり大事な点なんです。

この3年間見ててちっとも綺麗にならない周辺、大阪城の方がずっと綺麗です。

少なくとも外堀までとは言いませんが内堀ぐらい、グルっと綺麗にして水を入れて、それから周辺もですね綺麗にする、そういうことをこの3年間にどうして一歩も進まないんだろうかと。

木造ね、木造決まったことだとか何とか言って、別に僕も木造あまり賛成じゃないんですけども、もう現時点でどうでもいいって感じになってますけども、もうちょっと周辺をね、綺麗にしていきたい。

これは大阪城見たらわかりますよ、大阪城の中はみんな市民のねラジオ体操なんかしてます。朝6時半、6時頃に行きます6時半からそういうやっぱり名古屋市民の誇れる城城郭にしていきたい。天守だけではなくてですね。

ちっともう一つですね、9ページのちっと不思議な表現なんですけども、崩壊する可能性のある天守台で、支持しない基礎構造とする。これはどういう構造なんですか。

どんな構造を意味してるのか？これは私の2番の質問にあたります。

よろしくお願いします。

林： ありがとうございます。

一つ目の景観のところはご要望というかご意見いただいたということでよろしいですね。はいもう一つの方が9ページの丸の一番、一つ目の丸の前提となる考え方のところの一番最後の行のところですね。ここをもう少し具体的にご説明をお願いできればと思います。お願いします。

佐治： まず景観の改善につきまして、私の方からお答えさせていただきます。

確かに私も城の中や外をよくあることがあるんですが、例えば外から名古屋城を見ると石垣に草が生い茂っていたりとか、内堀の中にそのままいろいろ草が生えるていたりとか景観を阻害する要素がいっぱいあるなと思ってます。

また従来の高木がたくさんあるんですが、生いすぎてですね、なかなか外からその天守が綺麗に見える状況になっていないと。昔のその写真なんか見ると、確かに外からその邪魔をするものがなくそのまま障害物がなく天守が見れる状況が確認できますので、なかなか十分ではありませんが、あの景観の改善につきましては年々力を入れております。特に植栽の管理

計画ということは今後定めていきたいと考えておりました、まずはそういった樹木の状況なんかをしっかりと調査して、見通しが良いと景観の改善にこれからも努力して参りますのでご理解いただきたいと思いますとおっております。

林： もう一点、先ほどご説明の方お願いできますか。

名古屋城： 基礎構造 9 ページの基礎構造につきまして、大地震時に崩壊する可能性のある天守台で支持しない基礎構造とするということ、考え方の前提とする考え方の一つとしております。この意味はですね、江戸期に作られた今現存してる他の天守閣あると思うんですが、天守台、石垣も含めた天守台で天守閣自身を支えていたと思うんですね、それが名古屋城につきまして言いますと、戦後を木造だったものを、鉄骨鉄筋コンクリート造にするということで、荷重もかなり重くなるということがありまして、今現在、天守の中にケーソン基礎といまして、コンクリートの箱型のものが入っているんですね。

そういった状況ではあるということ、そういった状況の中で今回木造を計画するという事なんですが、一つ一番大事なのって言うこと、熊本地震があったときに石垣がかなり被害を受けているという状況があります。

ということも含めまして、木造天守を建てたときに、万が一、石垣に乗るような形で復元したときに石垣が大地震で崩れるというようなことがあると、復元した木造天守の中にいる観覧者の方々が被害を受けるというようなことがある可能性がどうしても否定はできないところがありますので、我々としてはその石垣で支持するわけじゃなくて戦後再建されたときに作られたケーソン基礎を今現在のところ再利用できるだろうという目論見をしておりますので、そこを利用しながら石垣には負担かけないような形で、人の安全も確保しながらということ基礎構造を考えているというものでございます。

林： はい、ありがとうございます。

すいません。お時間が迫ってまいりまして、あとお2人ということにさせていただきたいと思っております。ではの前の方、お願いします。

内田： 東区から来た内田と申します。

まず1点目の質問、本日1/19、愛知県下に新型コロナウイルスまん延防止等重点措置の適用」が正式に決定され、1/21以降適用されるということですが、そんな中市民向け説明会が強行されたことに対して強く抗議致します。

どうして市民向け説明会自体をオンラインで開催出来なかったのか。また今回も録画・撮影は不可です。去年もその旨発言しましたし、正式に文書でも申し入れましたが、今回も会場に来いという極めて不親切な対応です。

質疑応答も含めてオンラインで行えば、もっと多くの市民に安全に木造復元事業の現状を知らせることができたのではないかと思ひ、非常に残念です。

名古屋市が「オンライン説明会」と称する動画も見ましたが、細かすぎるのと一方的に説明するだけで市民の疑問には全く答えていません。今後オンラインでの説明会、特に質疑応答の配信の予定についてあるか質問します。

さて、内容に入ります。先程市から木造復元事業に関する説明がありましたが、現状どうなっているか理解することが出来ませんでした。

過去1年間に多数の情報公開請求をしたところ、黒塗りの中からかろうじて判明したことがありました。

以下4点質問します。

1) 当時の松雄観光文化交流局長が「市長主導の名古屋城木造復元では決してうまくいかない」と石垣部会委員にメールを送付していたことが判明しました。「市長の公約としての木造復元」と「行政ベースの木造復元」について、何が違うのか。またメール相手の石垣部会の赤羽一郎氏の「木造復元より現天守を護っていくことがはるかに歴史的に意義深い。木造復元に組することはあり得ない」に対し、文化庁から地元有識者の理解を得るように言われている点について、明確な説明を市長以外から答弁いただきたいです。

2) 石垣部会委員の千田嘉博教授から21/10/29に「御深井丸側内堀石垣調査の速報値を見たところ、想定より状況が悪い。内堀を埋めてクレーン台座を置くのはとても耐えられない」と指摘されています。御深井丸側石垣の現状と対策、クレーン台座を置く計画の現状をお教え下さい。

3) 市消防局から「地震後火災は検討対象としなくていい」とされたとあります。阪神大震災を踏まえても、地震後火災を想定しなくていいかご回答下さい。

4) 「消防設備システム評価」専門委員会から「5階窓からはしご車への移動は恐怖で動けないのではないか」と指摘がありました。東側地盤から37メートル、12階建てビル相当の5階での滞在想定人数、5階窓からはしご車への移動の人数と時間をお教え下さい。

他にも質問したいことは山ほどあります。時間を区切ることなく複数回質問出来ることを求めます。

以上5点。お願いします。

林： たくさんいただいて、一つ目が、そうですね。

市長主導と行政主導の名古屋城復元はどう違うか。

オンライン説明会も入ってるんですね。

わかりました。

オンライン説明会の開催についてご見解をお願いできればと思います。

名古屋城： ご質問ありがとうございます。

名古屋城の木造天守復元事業につきましてですけれども、多くの予算をいただきながら時間をいただきながら本市の大規模事業として実施させていただいております。

従いまして市民向け説明会といったものにつきましては、その進捗状況などを皆様にご説明いたしまして、理解を深めていただける大切な場であるというふうに意識させていただいているところでございます。

その年度に我々が取り組んだ内容といったもの、木造復元の進捗状況、今後の方針、本年度であれば宿題、文化庁からいただいたご指摘に対する回答いたしましたけれども、そのご所見いただいたということからその内容等、本市の対応方針といったことをご説明いたしまして木造復元の理解を深めていただきたいという趣旨で実施しております。昨年度におきましても、実地での説明会といったものをさせていただきました。

説明会後にですね、皆様にアンケートをいただいているという状況でございますが、そのアンケートにおきましてネットではない環境での実施に喜んでいただいておりますが、そのアンケートにおきまして一定数いらしたということ、それから撮影に対する拒否反応を示されるご意見をいただいたりということもございます。

そういったことも踏まえまして総合的に考えまして今年度におきましても現地開催といったもの、それからオンラインでのご意見とかご質問といったものを受け付けるフォームといったことを御用意させていただきまして、実施に至ったというところでございます。

いただいたご質問につきましては、会場にいただく質問同様ですね、オンラインでいただいたものにつきましても丁寧にご回答させていただきたいというふうに考えてございまして、ご理解の方よろしくお願いいたします。

林： はい、ありがとうございます。それからさっきのですね、市長主導と行政主導でどう違うかって。

佐治： 木造天守の整備につきまして市長指導の要請ベースと行政ベースでどう違いがあるのかというご質問でございました。

確かにですね、以前は竣工期限ありきで進めていった時期はございました。

ただ今、私どもとしましては文化庁の基準。先ほど説明された基準に基づきまして、それを遵守して、なおかつ地元の有識者の理解をしっかりと得ながら進めていくということでございますので、何もその変わらないという認識で進めているところでございます。

からもう一つ有識者からその反対意見があったんじゃないかというご質問だというふうには理解しておりますが、先ほども説明しましたように、本丸整備基本構想から天守閣の整備基本構想を今回定めまして、文化庁に提出しまして、一定のご理解をいただいたというふうにご考えております。

この策定につきましても石垣埋蔵文化財部会から天守閣部会、全体整備検討会議でその案件を聴いた形で合意を得た形で、そこでこういう提出しておりますので、一定の理解が得られたものというふうに私どもとしましては理解しているところでございます。

林： ありがとうございます。後、御深井丸の石垣について、

名古屋城： 御深井丸の内堀石垣につきましては、先ほどご質問の方がおっしゃったように先日石垣部会でも一部ご報告を差し上げましたが、そのときにご説明申し上げたのは、戦災で天守が焼けておりますが、そのときに石垣の方も合わせて火を受けておりますので、そのために主にそれを原因といたしまして、石材が劣化しております。劣化が進んでいるような状況でございます。

多くの石材が割れていたり、あるいはそのために石材の表面が割れることによって、間に詰めていた間詰め石、石と石の間に詰めていた間詰めと呼ばれる石が抜け落ちたりしているというような劣化状況でございます。先日の部会ではその部分のですね、石垣の状態が極めて悪い状態であること。またその上をすぐ上を来場者の方が通る通路となっておりますので安全の面からも対処方法の検討が必要であるというようなご指摘をいただいております。現在その破損状況と、それから個別のその破損に対する修復、補強の方法を検討しております。

そういった個別の検討を含めまして現在調査を進めておりますので、その全体の状況が取りまとまったところでですね、石垣の面としてどういう対応していくかというような方法を、対応方法を取りまとめたというふうに考えております。

石垣の状況全体を把握した上で、有識者にご相談して、適切な保存、復旧、補強の考え方を早急に決めてまいりたいというふうに考えております。

また最後にご質問いただいた、クレーンの基礎となる構台の設置方法につきましても、そういった石垣をどう保存していくかという考え方に合わせて検討する必要がございますので、現在あわせて検討しております。

林： ありがとうございます。

すいません、あと二つありました。はい火災関係をお願いします。

名古屋城： まず消防さんの方からですね、地震後の火災は考えなくてもいいというふうな発言があったということに対してなんですけども、私どもの理解としましては、名古屋城の木造復元天守の防災計画の一つとして、火災の原因となる火源、火の元ですね、天守内に設けない。

またあの持ち込まない、持ち込ませないという方針を徹底させるという考え方でありまして天守内に火源がない以上、地震によって天守の一部が破損することがあっても出火するしようがないという前提で計画をしております。

ちなみに現在の建築物は、普通に建てる場合ですけども、それについても地震と火災は同時に発生しないという前提で設計されております。

ご質問の地震後の火災っていうところにつきましては、阪神大震災の折に、住宅地で火災が継続的に発生した当時のことを言ったおっしゃってみえるのかなと思うんですけども、この火災の原因につきましては、地震で家の中にあった器具類ですね。

例えばガス器具ですとか電気器具、そういったものが倒れたりなんだりして、一方で停電も同時に起こっていたと。停電が復旧したときにスイッチが入ったままの電気器具とかです。そういったガス器具、そういったものに通電したということから火が回ってしまったというふうにも言われております。

従いまして名古屋城につきましては、火災の原因となる火源を天守の内部に設けないということで考えておりますので、地震であっても火災は起きないというふうに考えております。次に5階の屋根が非常に高い位置で、はしご車をつけたときに避難される方が怖くて動けないのではないかというご質問で、それに対して5階の想定人員と逃げ遅れの方の避難時間ですかね人数と時間というお問い合わせだと思っておりますが、まずあの5階の想定人員なんですけれども、名古屋城の場内に入場させる人数としましては、1時間当たり2500人というふうに考えております。

で、2500人を単純に6層6フロアありますので、6で割った場合ですと417人、あと面積案分で上の方に行くに従って面積小さくなっていきますので、面積で按分したときに、ちょっと正確な数字を覚えておりませんので申し訳ないんですが、400人よりは少なく100人台だったと思うんですけども。

そのぐらいまで人数が減ってくる。そういったあの5階の想定人数で考えております。それをベースにしまして、防災協定ですとか消防設備システム評価といった防災関係の第三者機関の評定をとっておりますので、基本的にあの避難防火避難については、そういったところで専門家のチェックを受けておりますので、大丈夫だというふうに考えております。あと逃げ遅れた人の人数ですとか避難にかかる時間というのは、これはやはり我々今の段階で、人数だとか時間ということはわからないとしかちょっと申し上げることができません。

林： ありがとうございます。すみません。先ほど私あと2人ってお伝えしたんですが、想定時間を超えてしましまして、コロナ禍でもありますのでこれで打ち切らせていただいてもよろしいでしょうか。

ありがとうございます。ご協力ありがとうございます。

ではご質問をいただきありがとうございました。

閉会の時間とさせていただきたいと思っております。最後に河村市長より一言閉会のご挨拶を申し上げます。

河村： それではありがとうございます。

外相当寒いですから、お気をつけてですね、お帰りいただきたいと思っておりますが、先日NHK見ておりおりましたら、和歌山城が復元をどうしようかとやってみましたねこれ。

あれも、あれもといっちゃいけないね。あそこもやっぱり空襲で燃えちゃった所で、コンクリートなのか木造なのかということ。確かにインタビューなんか出とったんですけど、それから沖縄の首里城ですね。これも残念だけど焼けちゃったということ。僕の理解してる範囲では、首里城をコンクリートで復元するという話はないと思っておりますけど、私は。

これは木造でやっぱりやっていこうということでございまして、その第1号は、なんと皆さんの今住んでおられる国宝1号であったこの名古屋城になったんです。

だから文化庁が僕には「河村さんの気持ちもわかるけど、一番最初の第1号は、国宝1号の名古屋城になったんだと。丁寧な上にも丁寧にやらさせていただきますよ」という話がありまして、「そうですね」ということでやっておりますので、ぜひまあちょっとだけわしも生きとらないかなということでございますので、ぜひ世界の宝になりますから、ないですからこんなのは、木造の。

それからもうちょっと言いますと、大きいのはやっぱりあのヨーロッパのパルテノン神殿とかは石だとかああいうものは、石とかああいうもんだから残るんですよ、木の文化というのはなくなっちゃうんです、こういう風に燃えちゃったりすると、そういう場合に文化的遺産というのはなくなるのかと、いやそうじゃないだろうと復元っていうのは可能じゃないのかということ、文化庁が三つ要件を立ててございまして、同じあったその真上に立てること、それから資料があること。もう一つは材料も焼けちゃってますけど、極力同じものを使うこと。すなわち国産の木ですね、ということで木の文化もちゃんとやっぱりずっと伝えていけるんだというのが奈良ドキュメントと言いますが、そういう思想でございまして、その輝かしいこの第1号ですね、実際上のということでございます。

精一杯、皆さんに喜ばれように、1000年後の子供が喜ぶやつを作りたいと思っておりますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

今日はどうも長時間ありがとうございました。

林： ありがとうございます。

以上をもちまして、名古屋城天守閣木造復元市民向け説明会を終了いたします。

混雑緩和のためご案内まで席でお持ちください。

座席記入カード、アンケート用紙を出口で回収いたします。

また他にご質問のある場合はアンケート用紙にご記入ください。

愛知県が嚴重警戒での感染防止対策を要請しておりますので、早めにご帰宅いただきますようお願いいたします。

それでは、お忘れ物のないようお気をつけてお帰りください。

本日は誠にありがとうございました。